



科長 幸地 克憲
(こうち かつのり)

外来日: 月・午後
木・午前

奈良や京都の仏閣、寺院を建造した古の匠達は木の性質、癖などを見極め、100年、200年後、使った木が1本1本どのように変化し、建造物全体がその形を崩すことなく、立派にその姿を後世に残せるか考えていたそうです。私たち小児外科医も、普段新生児から中学生までの幅広い年代の子どもの治療に携わっています。子供達は皆、心身共に急成長を遂げます。このため、治療にたずさわった子供達が、その後10年20年と成長していく過程を想像しながら、治療の選択を行っています。具体的には、最先端の医療活用、腹腔鏡・胸腔鏡などの内視鏡手術などを取り入れた低侵襲手術、個々に合わせた術式の微調整などを行い、成人以降の姿を想像しながら、お子さんの治療に携わって行きたいと考え、日々診療を行っています。

これまでの経緯: 2006年12月の開院以来、地域の先生方の協力、ご支援により徐々に患者数が増加しています。2010年度は、年間手術症例数が360例を超えています。新生児手術症例数も20例を超えました。患者数の増加に伴い、医療の質や患者・家族とのコミュニケーションが不足しないよう鋭意努力して行きたいと考えています。



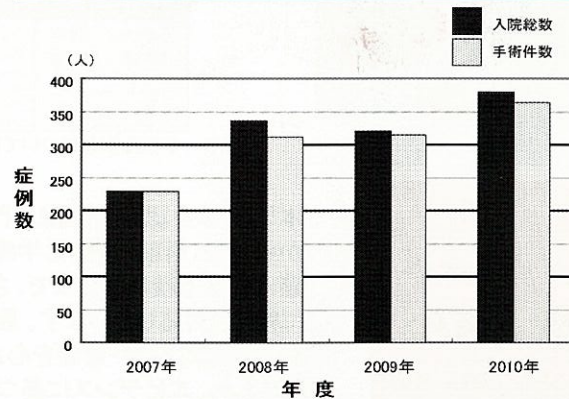
医員: 大澄 亜記 准教授: 幸地克憲

主な症例数(2010年度): 鼠径ヘルニア・水腫 140例、停留精巣 30例、臍ヘルニア 20例、急性虫垂炎 38例、頭頸部疾患(正中頸嚢胞、耳下線腫瘍など) 8例、呼吸器疾患(気管切開、気管喉頭分離、漏斗胸、肺切除など) 13例、腹部腫瘍 5例、腎泌尿器疾患(水腎症、膀胱尿管逆流、尿道弁など) 28例、内視鏡(気管支、上・下部、膀胱) 25例

小児外科の扱う主な病気

小児外科は新生児から中学生までの、多種多様な疾患に対して治療を行っています。

- 日常的な疾患: 鼠径ヘルニア、停留精巣、臍ヘルニア、包茎、耳前瘻など。
- 急性期疾患: 急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、肝・胆道系疾患(胆道閉鎖、胆道拡張症など)、異物誤飲(気道、消化管)、外傷、火傷など
- 慢性疾患: 腹痛、便秘、下痢、血便などの患児に、画像検査、内視鏡検査、消化管機能検査を行っています。便秘症、胃食道逆流症、過敏性大腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病などが対象となります。
- 腎・泌尿器疾患: 水腎症、膀胱尿管逆流症、尿管瘤、尿道弁などの外科疾患に対応しています。この他、夜尿や尿が近いなどの日常の排尿機能に関しては、画像検査、生理機能検査が充実しており、詳しい検査と治療を行っています。
- 新生児外科疾患: 新生児科、小児科と連携することで、胎児診断例から院外出生例に対して、緊急対応を行っています。また、県内では数少ない人工心肺装置による高度救命治療を行うことも可能です。
- その他先天奇形: 漏斗胸、肛門の位置異常(鎖肛)など、生まれながらの様々な疾患に対応しています。



地域医療支援病院登録医を随時募集しております。

当院は千葉県東葛南部の地域医療支援病院です。

「登録医」につきましては、下記、地域連携までお問い合わせください。

医療支援室 地域連携

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田 477-96
Tel. 047-458-6543 Fax. 047-458-6545
(代表) 047-450-6000

◎ お知らせ

小児の睡眠時無呼吸症候群の検査は、当院耳鼻科では行っておりません。小児科にて、入院治療をふくめ、ご相談に応じております。

■ 医療機関の先生へ:

- ・ 地域連携専用: TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30

※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休

- ・ 診察は予約制ですので、「紹介状」をご用意いただき、事前に予約をおとりください。患者さんからの予約専用電話は 047-458-6600 で受け付けております。

◆ 検査連携について:

- ・ 医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみ



地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科 ご紹介

八千代医療センターは、本年12月で開院後5年を迎えようとしております。医療機関の皆様には、病診連携、病病連携にご協力いただき、深く感謝しております。おかげさまで地域医療連携の整備が着実にすすみ、医療連携パスの運用などにより外来受診者数、入院患者数、手術件数なども順調に増加しております。本年3月、未曾有の被害をもたらした東日本大震災を経験いたしました。もともと免震設計構造であった当院の被害は最小限です。その甲斐あって東葛地区災害拠点病院としての機能を発揮することができました。

さて当院では、本年4月に診療科の再編成を行いました。今回、外科診療科4科の紹介をいたします。肝胆膵外科と消化管外科のメンバーが一緒になり、診療科名を消化器外科と改めまして再出発しております。マンパワーが増強したことで活気に満ち溢れ、今まで以上に幅広い疾患、内視鏡下手術などの診断・治療が実施できるようになりました。

そして、診断から治療戦略【外科治療(開腹術、開胸術、内視鏡下手術)、内視鏡的治療、化学療法、免疫療法、IVR療法など】に関しては各分野の指導医、専門医との定期的なカンファレンスで検討を重ね、最善の医療を提供できる体制を整えております。これにより、様々な合併症を有する患者さんに対しても、迅速に、各科のサポートのもとで医療が安全に施行されています。

それを可能にしている要因として、開院以来から勤務する誰もが感じていることがあります。それは、ひとつの医局内で各科の医師同士の垣根が非常に低く、連携が非常に容易であるということです。その雰囲気こそが大事なことで、仕事を容易に楽しくできることに繋がっております。

外科系の専門医研修施設として、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本乳癌学会、呼吸器外科専門医合同委員会、日本超音波医学会、日本緩和医療学会、日本静脈経腸栄養学会、日本肝胆膵外科学会(高度技能医修練施設)、日本がん治療認定医機構、日本胆道学会から認定研修施設として認定され、専門医の育成にも力を注いでおります。

今後は、千葉県のがん診療連携拠点病院を目指すべく、環境を整備して、今まで以上に高度先進医療を展開していきたいと考えております。

平成23年10月
副院長 消化器外科 新井田 達雄



診療科案内

消化器外科

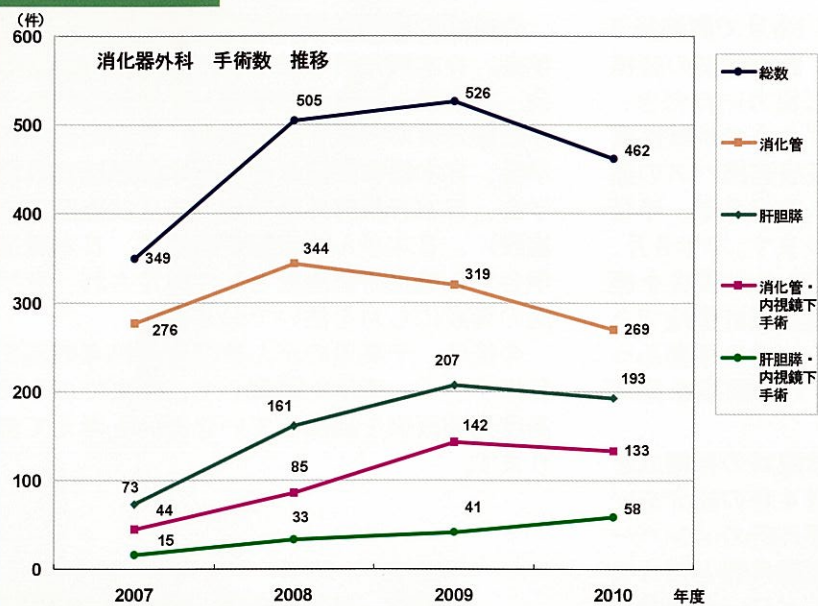


科長 新井田 達雄
(あらいだ たつお)



科長 大石 英人
(おおishi ひでと)

1. 内科、内視鏡科、放射線科、麻酔科、病理医、化学療法グループ、免疫療法グループ(女子医大本院)の専門医との協力体制のもとに、消化器疾患を中心に、外科全般の疾患も含めて診断から治療まで(化学療法、免疫療法を含む)すべて行っております。
2. 手術に関しては、標準術式の選択(縮小、拡大手術を含む)はもちろんのこと、近年、低侵襲性外科治療 Minimally Invasive Surgery (MIS) という概念から内視鏡をもちいた鏡視下手術も行っております。
3. 非切除例、再発例に対しても積極的に化学療法、免疫療法、緩和医療を含めて幅広く治療を行っております。
4. 経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG/ペグ)や経皮経食道胃管挿入術(PTEG/ピーテグ)や狭窄部拡張やステント挿入留置などの内視鏡治療も行っております。
5. セカンド オピニオンにも対応いたします。



消化器外科メンバー紹介

氏名	職名	専門分野	外来日
あらいだ たつお 新井田 達雄	教授	消化器外科全般、肝臓、胆道(胆嚢、胆管)、膵臓疾患の診断と外科治療、黄疸の治療	月・午前 水・午前
おおishi ひでと 大石 英人	講師	消化管癌(胃・大腸)外科治療、低侵襲性外科治療(内視鏡下手術)、経管経腸栄養法および消化管減圧法(PEG/PTEG)	木・午前
はまの みえ 濱野 美枝	医員	肝臓、胆道(胆嚢、胆管)疾患の診断と内視鏡下手術、消化器癌の抗がん剤治療	金・午前 土・午前
おにざわ しゅんすけ 鬼澤 俊輔	医員	肝臓、胆道(胆嚢、胆管)、膵臓疾患の診断と外科治療、内視鏡下手術、消化器癌の抗がん剤治療	金・午前&午後
ひらい えいいち 平井 栄一	医員	消化管癌(胃・大腸)外科治療、緩和外科	火・午前 土・午前(再診のみ)
やまね たかお 山根 貴夫	医員	消化管癌(胃・大腸)外科治療、内視鏡下手術	月・午前
いいの たかゆき 飯野 高之	医員	消化管癌(胃・大腸)外科治療、内視鏡下手術	水・午前
いしい まさゆき 石井 雅之	医員	外科、消化器疾患	
いした たけし 石多 猛志	医員	外科、消化器疾患	
ねもと さとし 根本 慧	医員	外科、消化器疾患	

消化器外科で扱う病気

- 食道癌、良性食道腫瘍、逆流性食道炎、食道アカラシア
- 胃癌、良性胃腫瘍、GIST(胃間葉系腫瘍)、難治性胃潰瘍、異所性膵
- 十二指腸、小腸癌、十二指腸潰瘍、クローン病
- 大腸癌、肛門管癌、潰瘍性大腸炎、直腸脱
- 肝臓癌(原発性、大腸癌などの転移)、肝内胆管癌、門脈圧亢進症、肝嚢胞
- 胆道癌(胆嚢癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌)、胆石症(胆嚢結石、胆管結石症、肝内結石症)、胆嚢ポリープ、先天性胆道拡張症
- 膵臓癌、膵臓性腫瘍、急性・慢性膵炎、膵・胆管合流異常症
- 急性虫垂炎
- 痔核や痔瘻
- 鼠径部をはじめ大腿、閉鎖孔、食道裂孔、腹壁癒痕ヘルニア症
- 消化管穿孔による腹膜炎などの救急疾患
- その他、腹部外科全般における疾患および機能異常



後列左より、石多、山根、石井
中列左より、平井、飯野、根本、齋藤(研修医)、下山(研修医)
前列左より、大石、濱野、新井田、鬼澤

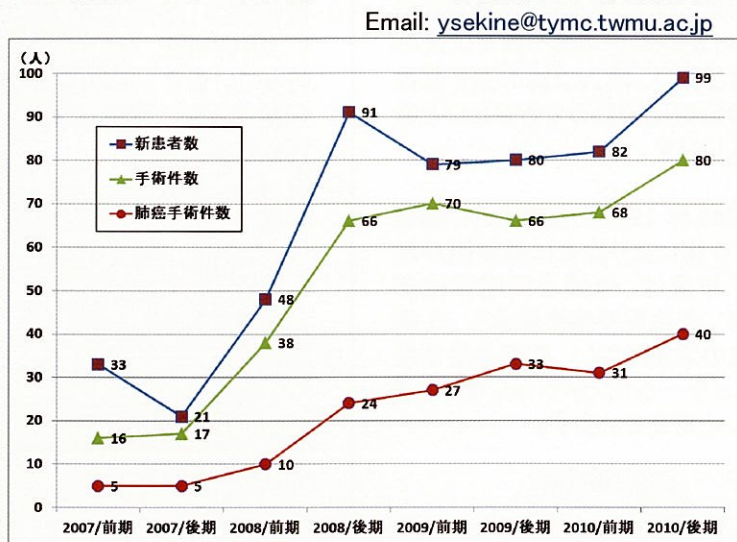
診療科案内

呼吸器外科



科長 関根 康雄
(せきね やすお)

日頃より東京女子医大八千代医療センターとの病診連携にご協力いただき、誠にありがとうございます。呼吸器外科にとりましても、先生方のご援助・ご協力のおかげで、扱わせていただく症例数を伸ばしてきました。以下に示すグラフは半年ごとの新患者数、手術件数、肺癌手術件数の推移を示しております。現在、EBM に基づくクリニカルパスを利用し、気胸手術で術後2日、肺癌手術で術後6日での退院を基本としております。その結果全体の平均在院日数も9日前後となりました。おかげさまで手術関連死亡はなく、肺炎などの重い術後合併症は2%以下にとどまっています。今後とも病診・病病連携へのご協力をよろしくお願い申し上げます。 呼吸器外科 関根康雄



呼吸器外科メンバー紹介

氏名	職名	専門分野	外来日
せきね やすお 関根 康雄	教授	呼吸器外科全般、内視鏡手術 慢性呼吸不全合併患者の外科治療	火・午前 金・午前
こう えいてつ 黄 英哲	医員	肺がん、縦隔腫瘍、気胸、胸腔鏡手術、 免疫、気管支鏡診断(EBUS等)	木・金 午前

◆救急疾患については、お問い合わせください。

診療科案内

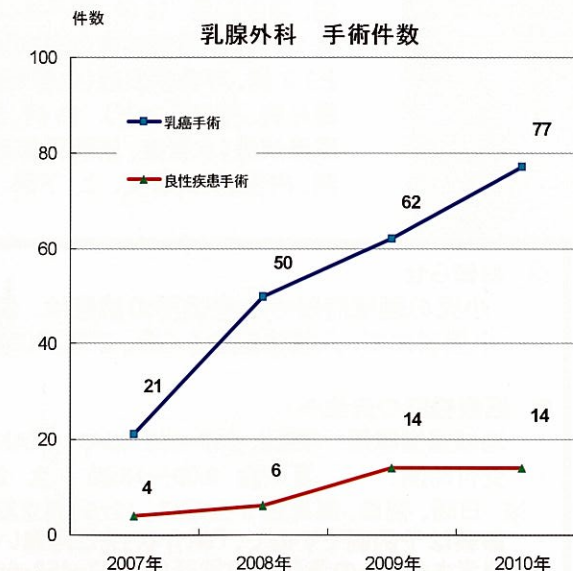
乳腺・内分泌外科



科長 清水 忠夫
(しみず ただお)

日本乳癌学会認定の乳腺専門医・認定医により、診断から治療(術前・術後化学療法、手術)、再発進行乳癌に対する緩和ケアまで、さまざまなステージの乳癌に幅広く対応しています。最新機器を駆使して、迅速かつ正確な診断・治療を心がけ、常に新しい情報を取り入れ、エビデンスに基づいた個別化治療に努めています。

当院では、非浸潤性乳管癌の発見契機となる石灰化病変に対して、ステレオガイド下マンモトーム生検も可能です。また、今年8月より放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節生検(RI法)を導入し、より正確なリンパ節転移診断が行えるようになりました。乳房温存手術や形成外科医と連携した乳房再建術を積極的に行なうことで患者さんのQOLを追求した治療を行っています。



乳腺・内分泌外科メンバー紹介

氏名	職名	専門分野	外来日
しみず ただお 清水 忠夫	准教授	乳癌診断・治療、乳房温存手術、術前化学療法	水・午前 (第2、第4)
じびき のりえ 地曳 典恵	医員	乳腺外科	月・午前 (女性科外来) 火・午前 金・午前
みやもと れいこ 宮本 礼子	医員	乳腺外科	木・午前&午後
てらもと ほなみ 寺本 穂波	講師	乳腺疾患、女性の肛門、漢方治療など	(女性科外来) 火・午後 水・午前&午後 木・午前 金・午前&午後 土・午前

後列左より：寺本・宮本、前列：地曳

呼吸器外科で扱う病気

1. 悪性腫瘍(癌など):
肺がん、転移性肺がん(他の臓器の癌の転移)、胸腺腫瘍、縦隔胚細胞性腫瘍、悪性胸膜中皮腫、気管・気管支腫瘍、肺内悪性リンパ腫など
2. 肺嚢胞(のうぼう)性疾患:
自然気胸、肺のう胞、縦隔のう胞(胸腺のう胞、気管支のう胞、心膜のう胞、食道のう胞など)
3. 良性腫瘍:
良性肺腫瘍(結核腫、過誤腫、血管腫、腺腫など)、神経腫瘍、縦隔奇形腫、胸壁腫瘍など
4. 重症筋無力症(筋肉に力が入らなくなる病気)で胸腺と関係しています。そのため胸腺を摘出します)
5. 感染性疾患、その他:
肺膿瘍(肺の中の膿)、膿胸(肺の外の膿)、肺動静脈瘻(肺の血管の病気)、外傷(肋骨骨折、血胸、肺・気管支損傷など)、胸水貯留など